

# 購入検討者必見！スマートフォン タブレットについて学ぼう



iwatobip

## まえがき

---

まず、これを書くにあたり断っておかなければならないことは、あくまで個人的な見解であり、人によりいろいろな見解があることと国内・国外各メーカーにおいて研究・開発および商品リリースのスピードが早く読んでいただいている時期には、古い情報となっている可能性があります。

その点に関しましては、ご了承いただきたいと思います。

## 購入検討者必見！スマートフォン タブレットについて学ぼう

<http://p.booklog.jp/book/34012>

著者 : iwatobip

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/iwatobip/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/34012>

ここがよく分からないとかこんなことが分からないなどありましたら  
可能な限り対応しますのでコメントいただければと思います。

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/34012>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

## スマートフォン・タブレットとは。。。。

---

スマートフォン（スマホ）・タブレットの定義は、今のところ明確になっていません。

とくにタブレットPCに関しては、ネットブックやポータブルメディアプレーヤ・電子ブックリーダー等にも同様な機能を持っている製品も多く線引きが難しいのが現状である。

ウィキペディアによると、「コンピュータにおけるポインティングデバイスの一種」とあります。

これだけでは何のことやらわからないと思う人が多いと思います。

それだけ様々な類似製品があり、分類が難しいということです。

そこで本書において、タブレットに関して日本国内において話題になっているgoogle社等にて開発されているAndroidというOSを搭載され、無線LANを搭載され、Webブラウザや各種開発アプリをインストールして利用できる製品やApple社にて開発されたiOSというOSを搭載iPad・iPod touchを念頭に置いて読んでいただければと思います。

スマートフォンとは、ウィキペディアによると「携帯電話・PHSと携帯情報端末機能がついた携帯端末」とあります。なんとなく分かるかと思いますが、早く言うと各携帯電話会社（ドコモ・au・ソフトバンクなど）が販売している通話機能の持ったタブレットと考えれば分かりやすいかと思います。

## スマートフォンシェア

---

2011年上期にOSシェアでAndroidがiOSから首位を奪ったという話題がありました。

ある調査会社の発表によると2010年9月現在 総数：5702人 Android：841人 iOS:3347人 その他：1514人であったが、2011年3月現在では、総数：9764人 Android：4601人 iOS：3906人 その他：1257人 という結果になっている。

この半年間で総数が約2倍となり、そのほとんどがAndroidであることがわかります。

今後は、このシェアがどのように変化していくのか楽しみです。

## AndroidOS

---

ここでスマートフォンやタブレットのOSについてシェアが多いAndroidとiOSについて簡単に説明します。

Androidについての歴史などについて話をしましょう。

詳しくはウィキペディア等を見ていただくとして、アプリケーション・ソフトウェア開発用にgoogle社から提供されるSDK (Software Development Kit)の初バージョン (1.0) のリリース日は2008年9月23日でまだ数年しか立っていないのが分かる。

現在は、1.xはほとんど使用されておらず、2.xもしくは3.xを使用しているものがほとんどです。また、2011年冬頃に4.xがリリースされる予定となっています。バージョンによって利用できる機能がだいぶ違いこのバージョンによって端末に搭載されている機能 (たとえばカメラやGPSやSDカードなど) を満足に使用できないかもしれないので注意が必要です。

## iOS (iPhoneOS)

---

アップル社製スマートフォンであるiPhoneやタブレット製品であるiPad・iPod touchに搭載されているOSです。

バージョン3.x以前のはOS X iPhoneからiPhoneOSと名称変更されており、バージョン4.xよりiOSという名称が使われています。

2011年秋頃に5.xがリリースされる予定となっています。

製品により、搭載可能なOSが決められており、アップデートも有料の場合があるので注意が必要です。

## Wi-Fi(WiFi)

---

ここからスマートフォンやタブレットに搭載されている機能のいくつかを簡単にご説明します。ただし、全てのものが搭載されているわけではなく、機器により搭載されている機能が違います。

機器を購入する際は、搭載されている機能を確認しておかないと後になって後悔することもあるかと思います。

Wi-Fi(WiFi)とは、無線LANを利用する中で機器間の相互接続性認証された製品ということを示す名称。

よって、Wi-Fiのロゴがついている製品に関しては、「無線LANが利用できますよ。」という意味になります。

ただし、無線LANの規格もいくつかあり、Wi-Fiのロゴがついているから全てOKではないこともあるので注意してほしい。

無線LANは、国際標準規格「IEEE802.11」というになります。そのなかに「a」・「b」・「g」・「n」と区別されています。

それぞれの違いは、通信速度と使用される電波の周波数帯の違いです。詳しく知りたい方はインターネット等で調べてください。

## テザリング

---

テザリングとは、スマートフォンなどのモバイル機器を経由させることによってパソコンや携帯ゲーム機などをインターネット等に接続させる機能のことです。

通常、パソコンを外出先で利用する場合には、データ通信専用のデータカードやホットスポットなどの公衆無線サービスを携帯電話と別に契約し利用する必要がありましたがこの機能を持ったスマートフォンを利用すれば、データカード等の契約は不要でパソコンをインターネット等に接続することが可能になります。

接続方法に関しては、Bluetoothや無線LANやUSBなど様々な方法があり機種によって違いがあります。

また、テザリングを利用する際に通常の packet 通信用契約と別途が必要であったり、packet 料金が高くなるなどがありますので利用を考える際はよく調べましょう。

## GPS

---

GPSとは、衛星を利用した地球上の測位システムのことをいいます。

分かりやすくいうと、現在地を地球の周りを回っている衛星を利用して簡単に調べることができる方法です。

カーナビなどに使われており、最近ではデジカメにもこの機能がついているものもあるようです。

## Bluetooth

---

Bluetoothとは、近距離無線通信規格です。数メートル離れた機器間の通信に利用されるもので、よく知られたものにパソコンに使用するマウスやキーボードやハンズフリーなどで使用されるヘッドセットやデジタルオーディオプレイヤーなどで使用されるイヤホンやヘッドホンなどの製品があります。

各製品同士が利用できるかなどは、詳しくメーカーに確認して使用をしてください。

## 赤外線通信

---

赤外線通信とは、赤外線という電磁波を使用した無線データ通信のことで、テレビなどのリモコン類や携帯電話同士の通信で利用されている。

## DLNA

---

DLNAとは、テレビなどの家電製品やパソコンなどの映像や写真や音楽などのコンテンツの相互接続するための業界標準（ガイドライン）です。

個人的にガイドラインとなっていて、標準規格でないことはすごく気になっています。気になっている点は同一メーカー間は大丈夫だけど別メーカー間の製品間は本当ちゃんと動作するのが疑問という点です。

## HDMI

---

HDMIとは、テレビやモニターなどとケーブルで接続を行い、映像と音声を伝送させるインターフェースのことです。

家電のテレビとDVDやHDDやブルーレイなどのレコーダ等を接続させるケーブルの1種であることが有名です。

コネクタのタイプが何種類もあり、コネクタの大きさなどにより「A」「B」「C」「D」と分かれています。

購入の際は、接続コネクタのタイプを確認してケーブルを購入しましょう。

## ワンセグ

---

ワンセグとは、地上デジタルテレビ放送に変わったことによって、携帯電話などの携帯機器用のテレビ放送のこと。

通常家庭用の放送は、12のセグメントを使用しているがこのワンセグは画面サイズ（画質）を落として1つのセグメントを利用して放送していることから、1セグメントを略してワンセグというようです。

## おサイフケータイ

---

おサイフケータイとは、携帯電話などに埋め込まれたICチップを利用した電子マネーサービスや携帯電話端末等の総称です。

NTTドコモがシステムを開発し、登録商標を行っていますが、auやソフトバンクなどの他キャリアでも広く利用されています。EdyやiD・Suica・nanaco・WAONなどの多くの電子マネーサービスだけでなくマクドナルドやマツモトキヨシなどのポイントサービスなどにも使われています。

## Xi（クロッシィ）

---

Xi（クロッシィ）とは、NTTドコモが提供するの次世代通信サービスブランドです。

FOMAと比べ高速・大容量・低遅延という3つの特長を掲げています。また、FOMAエリアを引き継ぎながら拡大していく

ことによってXiエリア外ではFOMAでの通信が可能となるようにしているようです。

当初、屋外エリアで受信時最大37.5 MbpsとなりFOMAの約10倍のスピードとなるようです。

## WiMAX

---

WiMAXとは、無線通信技術の規格のひとつでIEEE802.16-2004やIEEE802.16e（MobileWiMAX）で規程されている部分の仕様で実現しているようです。

日本国内では、KDDIグループの電気通信事業者であるUQコミュニケーションズが「UQWiMAX」というMobileWiMAXサービスを2009年から開始されています。また、その他の企業でもサービスを開始したり、通信実験等を行ったりしているようです。

## デジタルコンパス

---

デジタルコンパスとは、電子的なセンサーによって方位を判定する機能です。GPSと組み合わせることで現在位置と進行方向などの情報が分かることによって画面上の地図を進行方向にあわせ表示させることができるようになるといったように利用されているようです。

## 各種センサー

---

その他にも様々な技術のセンサーが使われています。たとえば加速度・ジャイロ・方位などがあります。

これらはスマートフォンやタブレット等の端末の傾き状態などをこれらのセンサーを利用して把握することが目的で搭載されています。

## 製造メーカー

---

各キャリアから発売されているスマートフォンの製造メーカーには、

CASIO

DELL

HUAWE

HTC

LGエレクトロニクス

NECカシオモバイルコミュニケーションズ

Pantech

ZTE

サムスン電子

シャープ

ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ

パナソニック

リサーチ・イン・モーション

東芝

富士通

などがあります。

今までの携帯電話では、ほとんどの機種が国内メーカーのみだったのですが、スマートフォンでは、国内メーカーだけでなく中国や韓国などの海外メーカーからも数多くの製品が発売されています。

この違いは、日本国内の携帯電話市場が日本が独自の進化をしてきたからだといわれています。海外メーカーは、機器の開発や販売をするにあたり、日本以外の国の市場も考えています。

今までの携帯電話市場は、製品に求める機能が海外と違っていたようです。

日本の携帯電話をみると通話やメール以外にもワンセグや音楽プレーヤーがついたりカメラ機能が付いていたりと様々な機能があります。それに比べ海外では通話のみなどあまり他の機能が付いていないものがよく売れているんだそうです。

このことから海外メーカーが日本で発売しようとした際は、日本仕様の個別製品を製造する必要があることから参入がほとんどなかったのだということのようです。

しかし、スマートフォンは日本メーカーもこれから開発して行く分野であり、海外のほうが開発が進んでいることから数多くの海外メーカーが参入しているのだと思います。

今後は各メーカー間の競争が激化すると思われるので今後の動向が気になります。

なお、先日（2011年09月15日）スマートフォンではないがタブレット端末「GALAPAGOS」の2機種を9月末で生産終了することが製造メーカーであるシャープが発表した。

## アプリ

---

スマートフォンやタブレットは、購入当初WEBブラウザや機種専用アプリ等のごく少数のアプリしか入っておらず使用者がパソコンと同様にアプリを購入などしてインストールする。

インストールは、WEBからダウンロードする方法がほとんどです。

機器にインストール可能なアプリは、基本的には搭載OSによります。

OS毎（Android用とiOS用）のアプリ総数ではダントツにAndroid用が多いです。その差はアプリ認定の違いによるといわれています。

iOS用アプリには独自の認定を受けないとアプリダウンロード可能なAppleのオンラインストア「App Store」に登録が出来ません。

それに比べAndroid用アプリは、認定等はなくいろいろなWEBページで更改されています。それゆえに、Android用アプリには、欠陥品やウィルスが混入されているアプリも多いです。ですからAndroidOSのスマートフォン購入後のアプリインストールは自己責任となってきますので注意が必要です。

この注意を怠るとウィルスに感染をされスマートフォンの中の電話帳の情報や画像などがインターネット上に更改されたり、他人に入手されたりと自分以外の友達などにも迷惑を掛けることもありえます。また、スマートフォン自体に影響を与えるようなウィルスであればスマートフォンが正常に動作しなくなったり、まったく起動しなくなったりする可能性もあります。

いままでの携帯電話では、せいぜいおサイフ携帯用や電子書籍用のアプリなどのごく少数のものしかインストールできなかったのがあまり危険性を感じながら利用する必要がなかったがスマートフォンは違いますのでその点は十分気をつけて利用することが必要です。